

1 身体症状を主症状とする患者さんに 役立つ漢方薬とは？

金沢大学
重原 一慶

LOH症候群の身体症状として発汗とホットフラッシュ、睡眠障害、疲労と行動力の減退、筋力の低下などが挙げられる。これらの身体症状・徴候に対する漢方治療としては桂枝茯苓丸、加味逍遙散、当帰芍薬散、補中益気湯、十全大補湯、抑肝散などが日常診療においてよく用いられている。LOH症候群患者は、身体症状を主症状として来院されることが多く、その主訴の1つとしてホットフラッシュが多い。LOH症候群においてホットフラッシュを訴える患者は、比較的体力のある実証の症例が多い印象であり、桂枝茯苓丸を使用するケースが多い。

我々は、前立腺癌患者の内分泌療法患者を対象として、のぼせ・ほてり等のホットフラッシュ症状に対する桂枝茯苓丸(TJ-25)の有効性及び安全性についての前向き試験を報告してきた。ホットフラッシュを訴えた30症例を対象として、TJ-25を12週間投与したところ、ホットフラッシュの強さは、薬剤投与4週間後から12週間後まで有意に改善し、頻度は、8週間後で有意な改善が得られた。のぼせ・ほてりの持続時間もまた、薬剤投与後から経時的に短縮を訴える患者が有意に増加した。さらにTJ-25の効果のメカニズムを検討するため、投与前と投与12週間後の各ホルモン、サイトカイン値を調査した。まず、ホットフラッシュとbaselineのホルモン・サイトカイン値の関連性を調査したところ、「強さ」とestradiol値、「頻度」とprogesterone値が有意に逆相関していた。次に各パラメータをmedian値で分けてホットフラッシュの改善度を比較したところ、TNF α 値が高い集団ほど「強さ」の改善が良好であり、IL-8値が高い集団ほど「頻度」の改善が良好であった。しかしTJ-25投与によってTNF α 値・IL-8値を含むすべてのサイトカイン値に変動はなく、ホットフラッシュの改善度とTNF α 値・IL-8値の変化量に相関は認めなかった。これらの所見からTJ-25のホットフラッシュの改善には、TNF α ・IL-8が関与しており、TJ-25は、これらのサイトカインを直接減少させるのではなく、その作用を何らかの形で抑制することが推察された。

本セッションでは、LOH症候群の身体症状に対する漢方治療について概説し、その症状の1つであるホットフラッシュに対する桂枝茯苓丸の効果、作用機序について我々の知見および考察をまじえて講演したい。